

「小学校で理科を学ぶ意義や価値」

～子供を真ん中に据えて～

1. 「理科を学ぶ意義」とは

小学校で理科を学ぶ意義や価値とは、なんだろうか。

例えば、自然の美しさを感じたり、科学的に問題を解決する過程を身に付けたりすることなどが考えられる。それは、「なぜ理科を学ぶ必要があるのか」「どんな資質・能力を育てたいのか」という教科の本質に関わる、広い意味での理科を学ぶ意義であろう。その中からどのようなところに価値を見いだしていくのかということが、どこに重点を置いて構成するのか、指導の仕方をどうするか、カリキュラムなど理科の授業を方向付けるものととらえる。

ただそれは教師自身が感じているだけでなく、子供自身が理科を学ぶ中で実感する「学んでよかった」「もっと知りたい」「生活や未来に役立つ」といった内面的な意味付けや自覚があって初めて意味を成すものではないだろうか。理科が子供の中で自分ごとになり、感動や納得、その後の学びへの意欲につながる時、そこに意義や価値が生まれるだろう。

教師は目の前の子どもの姿を見取り、なおかつどんな意義や価値を見つけてほしいのかと考えて子どもに伴走するからこそ、子どもたちと意義や価値を創っていくことができる。その中では子どもたちは、教師が想定していた意義や価値を超えていくことも考えられる。

令和6年12月に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」が出されてから、中央教育審議会では教育課程特別部会による、次期学習指導要領に向けた議論が続いている。単なる知識習得の枠を越え、中核的な概念を身に付けることや、多様な子供たちがより主体的に学ぶことが重視されようとしている。

変化の激しい未来を生き抜くことが求められる子どもたちに対し、求められる教育が転換していく過渡期の今だからこそ、小学校で理科を学ぶ意義や価値を改めて考えていく。

2. 今年度会報誌で特集していく「理科を学ぶ意義や価値」

小学校理科学習では、自然の事物・現象を対象とした問題解決を大切にしてきた。激しい変化が止まることがない時代において求められる問題解決とはどのようなものか。

理科を学ぶ意義や価値について、本年度の会報誌では主に次のことを特集していく予定である。

(1) 理科を学ぶ意義や価値

小学校で理科を学ぶ意義や価値とはどんなものか。教師が見いだした意義や価値は、授業を通してどのような子どもの意義や価値へと変容していくのか。

例えば以下のものが考えられる。

①学び方（問題解決、見方・考え方、協働）への意義や価値

②内容（自然の事物現象の捉え方）への意義や価値

(2) 科学的な問題解決と探究 学び方

子供が「学び方（問題解決）」の面において、理科を学ぶ「意義」や「価値」を見いだしていくためには、育成された問題解決の力を発揮していくことが求められる。では、問題解決の力をどのように育成していけば、その力を「発揮できる力」として実装していけるのか。

(3) 中核的な概念の形成

子供が習得した知識を他の学習や生活の場面で活用して考えたり、個別の知識や技能が関連付けられた深い意味理解をしたりするための学びを「意義」や「価値」から考える。小学校理科で中核的な概念を深く理解するためには、どのような指導が求められるのか。

(4) 理科の学びを広げ生かす

他教科を学ぶ際、「これ、理科と同じだね」と気付く子ども、「だったら、理科と同じようにやってみよう」と動き出す子どもの姿に出会うことがある。理科で学んだ内容や学び方を広げ生かしている姿ではないだろうか。小学校理科の問題解決で身に付けた力を、どのように広げ生かすことができるのか。

授業デザインの在り方や、実際の子どもの姿を通して、理科を学ぶ意義や価値について考えていく。

(5) 子供が主体的に学ぶ

子どもの「知りたい！確かめたい！」を教師はどのように受け止め、理科を学ぶ意義や価値につなげられるだろうか。主体性の高まった子どもたちは、理科の学びをどのように価値あるものと感じているのだろうか。

小学校理科が目指す主体的な学びを一度俯瞰し、様々な支援の在り方を深掘りすることで、子どもが見いだす理科を学ぶ意義や価値について考えていく。

2026年度の会報誌が、全国の小学校理科のこれまでと未来の実践をつなぐ場となり、価値ある学びの場となるように特集していきたい。